

## 子ども同士の交流は…「互恵性のある交流を！」

藤水小学校では給食後の休み時間を活用して、1年生と隣接する藤水幼稚園の園児の交流を行いました。1年生が国語の授業で取り組んできた「じどう車くらべ」から、ペアやグループで“自動車クイズ”を考え、タブレットを使って園児にクイズを出題するというものです。

交流までの取組  
国語科で



1年生が国語の授業で車について本やタブレットで調べて集めた情報を、より楽しくわかりやすいクイズにしたいという意欲につながるよう、クイズの対象者は日ごろから交流をしている幼稚園児に設定。1年生は“幼稚園の子に楽しんでもらいたい！”という期待と、そのためにはどうしたらいいのかな？という問い合わせを持ち、わかりやすいように問題をスラスラ読む練習をしたり、タブレットの見せ方を工夫したりしていました。

当日は  
自動車クイズで  
交流



**近づく距離感  
園児の気持ちを汲み取ったやりとり**

交流前、担任の先生から交流の日をいつにするか聞かれ、自分たちの準備の具合を考えて交流の日を決定！見通しを持つことで、目的意識や自分たちで決めたことへの責任感、自立心など様々な力が育くまれます。当日は園の子どもたちに、出題の仕方に言葉だけではなくジェスチャーも混ぜたり、自分のクイズのベースに来てくれたうれしさから園児の名前を聞き取ってメモしたり、日ごろの国語の時間だけでは感じられなかつたものを体験しました。園児は優しく接してくれる1年生の話に期待感をもってじっと聞いたり、自分の考えをそっと話したり、タブレットに好きな自動車を見つけてタブレットを触らせてもらったりしていました。

交流後の  
振り返り

園児がやってくる寸前まで出題の練習をしていた1年生の振り返り（抜粋）  
**はじめ じぶんのとこへ こないとおもったけど きてくれて うれしかったです。**

園児の振り返りは交流後、園に戻ってからの保育室で…。

「お兄ちゃんみたいなくるまのクイズ、ぼくもつくりたい！」  
「お姉ちゃんが言うとったくるま、あの本にのっとる！」



◎小学校で経験した楽しさや、小学生へのあこがれの気持ちは、幼児の探究となって遊びの中で再現されます。

子ども同士の交流は、異年齢の子ども同士が、かかわる力を育てるよい機会であり、保育者や教師にとっては互いの子どもの発達を知り、子どもの変容も見られる活動です。また、交流当日までの時間は活動をどのように捉えるかを幼小共に考え、子どもたちにも当日に期待感を持たせる大事な期間となります。交流後は、互いの子どもの姿を語り合い、活動のプロセスから子どもの育ちについてさらに深く考える時間となります。会える時間とともに会えない時間にも、相手に思いを寄せることで、互恵性のある交流をめざしましょう。